

穂 学

令和2年度
広州日本人学校 学校便り
[No. 21]
令和3年3月3日(水)
発行責任者 校長 喜屋武浩司

「一期一会(いちごいちえ)」

茶道で使われる「一期一会」という言葉があります。「一期」とは一生、生まれてから死ぬまでの意味で、「一期一会」は一生に一回だけの出会いという意味である。茶道の世界では、真心を込めて常に最善を尽くすことを重視しています。「一期一会」は、千利休の弟子である山上宗二が茶会を催したときに、茶会は生涯にただ一度まみえるものとして、「一期に一度の会」と記したことが語源となっています。

さて、三月に入り、いよいよ学部の卒業や学年の修了を迎えようとしています。コロナ禍の中、人恋しい時期が長く続きましたが、皆さんにとって、広州日本人学校での出会いはどのようなものだったのでしょうか。四月から新しい年度を迎えます。「一期一会」の言葉の意味を思い出し、素晴らしい出会いになることを願います。

「良き友とは」

「一期一会」に続き、良き友について考えてみましょう。皆さんにとって良き友達、本当の友達とはどのような友達でしょうか。

2500年前に仏陀(お釈迦様)が書いた「因果経(いんがきょう)」という本の中に、「朋友(良き友)に三つの要素あり」と書かれています。

- 一、友達に間違いがあったら、見て見ぬ振りなどをせず、きちんと忠告し合うこと。
- 二、友達に良いことがあったら、うらやましがったり妬んだりせず、心から一緒に喜び合うこと。
- 三、友達が苦しい目にあっているときは、見捨てたりせず、一緒に苦しみ助け合うこと、寄り添って上げること。

最後に、こう締めくくられています。「良き友を得んと思うわば、良き友となれ」一期一会を大切に、生涯の友を得るために、上の三つを実践してみませんか。

「校歌制定っていつ？」

去る一月、一通のメールがありました。送った方の名前は山登靖(やまとやすし)様でした。この名前を聞いて、どのような人か見当がつかますか。

実は30年前、本校がまだ補習授業校時代に、本校の校歌をつくってくれた方なのです。メールは次のように始まっていました。

「寒中お見舞い申し上げます。コロナウィルスの世界的なパンデミックの中ですが、広州日本人学校の先生方、児童生徒の皆さんにおかれましては、益々ご清栄のことと存じます。」

広州日本人学校が開校してそろそろ25周年を迎えるのではと思われ、メールを送ってこられました。25周年は一年前の令和元年度だったのです。それでも、本校の節目をお祝いしたいという思いで、ご自身がYouTubeに過去の写真などを使って、フォトスライドショーを作成してアップしてくれました。2月23日の全体集会でみんなで視聴し、その当時の様子を振り返りました。最近の写真も入りますので、ぜひご視聴頂ければと思います。YouTubeで「広州日本人学校 校歌」と検索してみてください。また、ロイロノート「学校からのお知らせ」にも入れてあります。

「広州日本人学校の皆さん、くれぐれも健康第一でお過ごし下さい」と最後に添えてありました。これからも、広州日本人学校の発展を見守って下さい。ありがとうございました。